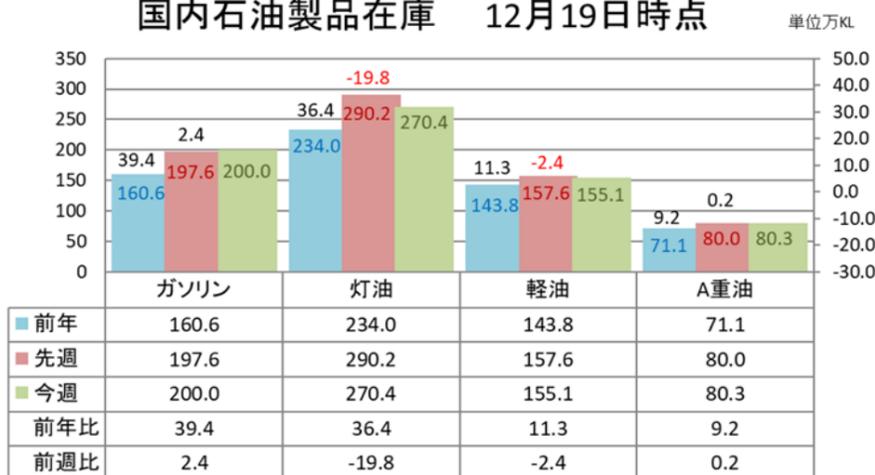


【概況】 <上げ基調一転するも底堅く>

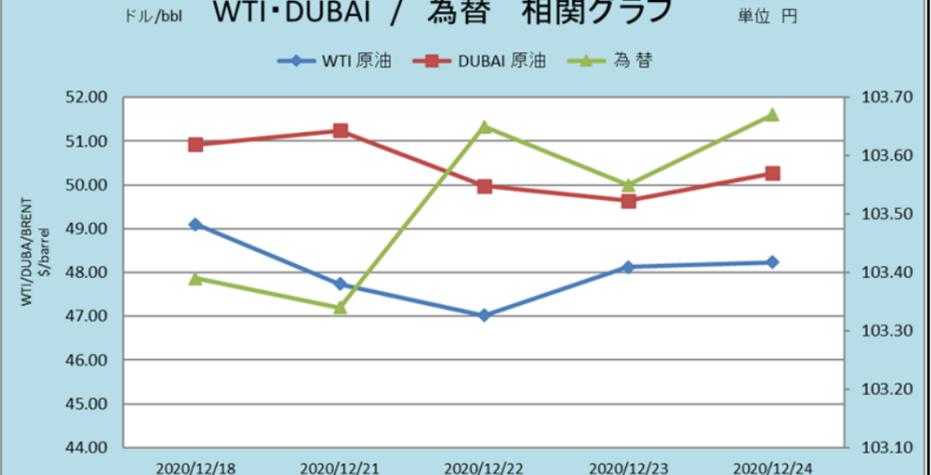
- 18日、米食品医薬品局(FDA)の諮問委員会は17日、米モデルナの新型コロナワクチンについて、緊急使用の許可を勧告しました。ワクチン普及で経済の正常化が進み、エネルギー需要が回復するとの楽観的な見方が広がっていることや米追加経済対策への期待もあり上伸しました。エネルギー情報局(EIA)が今週発表した週間石油在庫統計で原油在庫の減少が見られたことも需給引き締め観測につながり、原油を下支えしました。
- 21日、感染力の強い新型コロナの変異種が英国で確認され、ロンドンなどはロックダウンに陥りました。欧州各国による感染拡大防止に向けた制限措置強化の動きを受け、エネルギー需要の先行き懸念が再燃した売りが殺到し、相場は早朝に一時6%近く下落しました。米議会執行部が20日、総額9,000億ドル規模の追加経済対策で合意したことも支援材料となりましたが、リスク回避姿勢は根強く、上値は抑えられました。
- 22日、従来種より感染力の強い新型コロナの変異種が英国で確認され、感染拡大防止のための制限措置強化の動きが欧州や中東諸国にも広がりました。一段の制限措置によって経済活動が停滞し、エネルギー需要にも影響を及ぼすとの懸念が再燃する中、前日からの売り基調が続きました。
- 23日、米エネルギー情報局(EIA)が発表した週報では、原油在庫は前週比60万バレル減少しました。市場予想の320万バレル減よりも小幅な取り崩しでしたが、ディスティレート在庫も230万バレル減と、予想よりも大幅な取り崩しだったため、需要回復への期待が広がり、相場は上げ幅を拡大しました。
- 24日、英国と欧州連合(EU)の自由貿易協定(FTA)締結交渉がついに妥結したことが買い意欲を支えた一方、英国で確認された感染力の強い新型コロナウイルスの変異種は世界的に拡大し、さらに南アフリカでは別の変異種が流行しており、冬本番を迎える北半球を中心に経済活動が抑制されるとの見通しが投資家心理を圧迫しました。また、トランプ米大統領が追加経済対策法案への署名を拒否する意向を示したことで、相場は一進一退の展開でした。

12月25日 17:00現在 WTI原油 48.30ドル 為替 1ドル 103.53円

国内石油製品在庫 12月19日時点



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



次回元売変動予測

1/7~ 元売変動予測

ガソリン	→	-0.5~±0
灯油	→	-0.5~±0
軽油	→	-0.5~±0
A重油	→	-0.5~±0
LSA	→	-0.5~±0

【製品卸価格】 <年内最後の週末へ>

《今週》今週の元売り仕切り改定は「+0.5円」の値上げ改定でした。改定後はガソリンを除いておおそ値上げが浸透しました。灯油は年末年始での寒波が予測されており、需要は旺盛です。また配送面で余裕がないことや月内枠の消化が進んだことで市況の値上げが各地で見受けられます。さらに出荷規制が日本海側を中心に再度入り始めていますので、その影響で配送繰りが厳しくなっています

《12月26日以降》来週は元売り価格改定はありません。今回の改定で12月24日~1月6日までの二週分となっています。次回の改定は1月6日に1月7日以降分が発表となる予定です。元売りがいつの原油コストを仕切り改定の目安とするのか不透明であり、昨年のように年末年始で原油が暴騰すれば、大幅な値上げになる可能性もあります。市況としましては、月内の月間価格も今日で確定し、先物の納会も本日でしたので、安値としては月間リンクの仕入れ玉や先物玉を扱うディーラーが現在の値位置での販売を月末まで続けることが予測されます。年初の価格につきましては、リセット値上げとなる可能性が高くなりますので、慎重な価格提示をお勧めします。

※現段階の原油コストによる予想です

【トピック】 <2020年振り返り>

2020年もういよいよ終わりが近づいてきました。今年は年末年始の原油価格暴騰から、新型コロナウイルスの蔓延、OPECの協調減産決裂、WTI原油が4月に史上初のマイナス値をつけるなど、相場変動の激しい一年となりました。国内市況につきましても、リム指標廃止の動きが進み、同業者販売において元売りの目指す、石油製品価格の上昇へと一歩進んだように思えます。また、元売りの仕切り改定にはサウジアラビアからの原油の調整金が追加で加味されるようになり、原油コストだけでない仕入れの変動に各社困惑しました。新型コロナウイルス感染拡大により石油製品の需要は落ち込みましたが、菅総理が2050年までの「脱炭素社会の実現」を目標に掲げた為、それに向け石油業界も今後変革を迫られるという実感を感じずにはいられなくなりました。年末年始に向け、コロナの再拡大、変異種の出現、米国の追加経済政策、EUと英国の貿易協議合意など原油相場は不透明な状況となっていますが、1月3日~4日にOPECプラスの会合が行われる予定ですので、その結果で相場が下支えされることを願うばかりです。